

わが校百年の教育



旧校舎



新校舎

伸びて行く

一山のわらび

ぐんぐんのびる

春の日をあびて

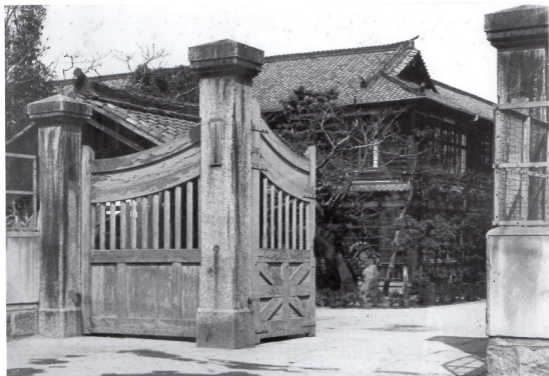
ひとりで伸びる

ニたんぼの麦の芽

ぐんぐんのびる

雪の中をわけて

ひとりで伸びる



旧校舎校門



新校舎校門

戦前の学習(一)



合科学習 (虫とり)

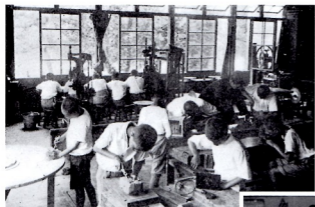


合科学習 (おもちゃづくり)



合科学習 (ゆうびん局)

戦前の学習(二)



手工〈独自学習〉



算術〈相互学習〉



国語〈相互学習〉



地理〈相互学習〉

戦後の学習(一)  
―旧校舎時代―



しごと (大むかし)



なかよし (なかよし委員会)



けいこ (音楽)



なかよし (青少年赤十字活動～災害地への見舞品発送～)

戦後の学習(二)  
— 新校舎時代 —



登校式



なかよし (運動場グループ)



けいこ (造形)



けいこ (理科)



しごと (鮮魚店へのインタビュー)



しごと (恐竜博物館見学)

戦後の学習(三) — 近年 —



けいこ (国語)



しごと (日中交流)



けいこ (家庭)



けいこ (算数)



けいこ (音楽)



けいこ (体育)



行事のいろいろ(一)



プール水泳納めの会



水泳記録会



臨海合宿



臨海合宿



運動会



運動会



音楽会 (本学講堂)



音楽会



歩走練習 (鴻池陸上競技場)



歩行練習 (若草山)



低学年なかよし集会 (げき「大きなかぶ」)



学芸会

来訪の方々



ウォッシュバーン氏 (右)  
1931年 (昭和6年) 1.24



米国第一次教育使節団  
1946年 (昭和21年) 3.17



ヘレンケラー女史 (左)  
1937年 (昭和12年) 5.11



## 奈良女子大学附属小学校創立百周年を迎えて

附属小学校校長

山 辺 規 子

さる平成二十三年三月十九日、奈良女子大学附属小学校は百周年を記念する式典を開催しました。わずか八日前にあの東日本大震災が発生し、さまざまな意味で混乱の中になりましたが、附属小学校は、子どもたち、教職員はもちろん、同窓会、育友会、教育後援会の方々が長い時間その準備に多大なご努力をいただいたことをふまえ、この百年の歩みの意味の大きさを改めて考える記念式典として開催しました。

当日には、子どもたちが、自分たちなりのかたちで附属小学校生活を表現しました。いうまでもなく、附属小学校の精神は「子どもたちが自ら伸びる」ことにあります。その精神を受け継いでいることを示すものでした。また、開校の経緯から、奈良女子大学校内にあった時代、現在の学園前に移る時代を経て現在にいたるまでの画像が流されました。

記念式典は関係する者が集い「百年という歴史を刻んできたことについて考える場だったわけですが、もちろん関わりのある方々全てにご出席いただけるわけではなく、また附属小学校の歩みのさまざまな側面を取り上げるほど時間がかけられるわけでもありません。

ここに編んだ百周年記念誌は、現在・過去・未来の附属小学校に関わってくださる方々に、附属小学校の百年の歩みをより詳細に、より多角的に共有していただき、附属小学校の「これから」につなげていくためのものです。本誌作成に御協力いただきました多くの方々に感謝申し上げますとともに、この百年誌を、附属小学校として新しい時代のさまざまな課題に取り組み、さらに前進する礎としていと考えております。

(平成二十四年三月)



## 創立百周年を祝して

奈良女子大学学長

野口 誠之

奈良女子大学附属小学校は、平成二十三年、創立百周年を迎えました。奈良女子大学の創立百周年は平成二十一年ですから、まさに大学とともに百年の歴史を刻んだことになりました。大学とともに歩んだこの百年を関係者の皆様とともに祝いたいと思います。

附属小学校は、明治四十四年、奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校に設置されました。昭和二十四年、奈良女子高等師範学校を基盤として奈良女子大学が発足した際には、附属学校の存続が危ぶまれたこともありましたが、大学および附属学校関係者の強い働きかけによって存続し、今日まで歩み続けることができました。昭和二十七年四月以降は、奈良女子大学文学部附属小学校となり、文学部附属としての時代が長く続きました。

平成十六年四月、国立大学は国立大学法人となり（いわゆる法人化）、これに合わせて、本学はそれまで文学部附属だった附属学校を大学附属に組織替えし、今日に至っています。本学附属学校のこうした大きな改革の背後には、平成十三年に中教審から出された、いわゆる「在り方懇答申」があります。この答申は、本学のような非教員養成系大学にはたいへん厳しい内容を含むものであり、今までのままでは、附属学校の存続が危ぶまれました。しかし、これを契機にして、本学の附属学校は新たなステージに立つことができました。

附属小学校二代目主事木下竹次の「奈良の学習法」、四代目主事重松鷹泰の「奈良プラン」は、今なお、附属小学校の名を高めています。女高師以来のこの伝統を守りつつも、附属小学校は現在、さらに高みをめざすべく新たな実践をおこなっています。国立大学の附属学校に求められるのは、すぐれた教育だけではなく、大学と連携した教育研究の実践です。附属小学校は、附属中等教育学校および附属幼稚園と連携して文科省の研究開発指定校に二期連続六年間（平成十八年度～二十三年度）採択され、この面でも大いに活躍しています。

さらに、附属小学校は、現在、附属幼稚園との、単なる連携を超えた一貫教育を目指し、教育研究実践を積み重ねています。本学には、十三年目を迎える中高一貫の附属中等教育学校があり、全国の国立大学附属中高一貫校の中核を担っています。附属小学校と附属幼稚園も幼小一貫校の実質化をめざし、さらに前進することを期待しています。

百周年を迎えることができたのは、教職員の努力のみならず、保護者の方々のご協力・ご支援の賜物であります。また、附属小学校で学んだ卒業生のみならずのその後の活躍にも支えられています。同窓会の方々には、百周年記念の会も主催していただき、百年を振り返り御礼、新たな百年に向かっていくための、反省・省察の契機をつくって下さいました。これら多くのみなさまのご尽力に対し、心から御礼申し上げます。

附属小学校は、今後も、教職員が一丸となって、大学および附属中等教育学校・幼稚園とも密接な連携をしつつ、我が国の教育の拠点校となるべく、新たな百年に向かって歩んでいかなければなりません。大学としても、本学の重要な資産である附属学校をひきつづき強力に支援していく所存です。



## 創立百周年を祝して

附属小学校同窓会「伸びて行く会」

会長 佐川 肇

創立百周年まことにおめでとうございます。

私は附属幼稚園を経て昭和二十五年に入學いたしました。その後附属中学、附属高校と都合十五年間附属にお世話になりました。また私の姉三人もすべて附属出身であります。私の母は明治四十二年生まれで椿井小学校を卒業後、奈良女子高等師範附属女学校に入學し、昭和二年に五年課程を卒業しています。つまり柳汀会の大先輩であります。さらに私の妻（小学校からの同級生）、妻の姉、母親も附属出身という女子大一家の中で育ったようなものであります。

さて、小学校時代の思い出ですが、当時は終戦直後とあって給食は貴重な栄養源でした。ただ、脱脂粉乳で作ったミルクだけは不味かったです。皆鼻をつまんで一気に飲み干し、急いでパンやおかずを口に入れていたように思います。私は三年の夏に肺門リンパ腺を患い、ひと夏を寝て過ごしました。暑い中毎日医者へ通い、当時新薬だったストレプトマイシンとペニシリンをお尻にうたれ、錠剤を口いっぱい頬張って飲まされました。プールにも行けず、蟬取りにも行けず、ただゴロゴロ寝ているばかりだったある日、担任だった今井鑑三先生がお見舞いに来てくださいました。「どうしとるかのおう、元氣かのおう」と言いながら「アリババと四十人の盗賊」という本をいただきました。この年になっても当日の状況をいまだにはつきりと覚えているのはよほどうれしかったからに違いありません。それ以外の思い出は、アメリカから送られてきたギフトボックス、冬の耐寒訓練で毎日若草山に登ったこと、臨海合宿や遠足、映画鑑賞など校外学習ばかり覚えていますが、唯一自由研究で日本海溝やフィリピン海溝を調べたことがあります。中でも特に深いところは海淵といって一万メートル以上あります。なぜこんなことを調べたのかわかりませんが、地震が頻発している昨今興味深く思い出されます。

さて、昨二十三年三月十九日に附属小学校百周年記念同窓会「伸びて行く会」総会をホテル日航奈良で開催いたしました。直前に起こった三・一一東日本大震災の影響で開催を危ぶむ声もありましたが、当初「祝賀会」としていた名称を「記念同窓会」に変更して開催したものであります。来賓として大学から野口学長先生はじめ多くの先生方、元教職員、現職の先生方をお迎えし、同窓生を含め約二七〇名ものご参加を得て盛大に開催できましたことを会長として大変光栄に存じております。当日会場入り口で集めさせていただいた東日本大震災義援金は赤十字へ寄付いたしました。約一年半の準備期間中、昭和四十年、四十一年卒の世話役の方々、暑い中、四、〇〇〇通以上の案内状の宛名シール貼りをお手伝い頂いた育友会のお母さん方、お父さん方、後援会等関係各位のご尽力に心から御礼申し上げます。皆様方のご尽力により記念事業募金も順調に集まっております。改めて厚く御礼申し上げます。百周年は附属小学校にとって次への通過点であります。今後さらに充実した教育方針のもと、社会に有益な人材を輩出されることを祈念いたします。

# 目次

挨拶 附属小学校校長 山辺規子  
祝辞 奈良女子大学学長 野口誠之  
附属小学校同窓会会長 佐川 肇

## 第I部 百年の教育の歩み

### 第一章 草創期の附属小学校

- 1、創立への経緯……………一一
- 2、創立当初の附属小学校……………一二
- 3、真田主事と分団式教授……………一八

### 第二章 学習法の主張

- 1、木下竹次と学習法の創始……………二三
- 2、合科学習の提唱……………二五
- 3、学習法の主張……………二六
- 4、木下竹次の「学習原論」……………三一
- 5、合科学習の実践……………三五
- 6、当校教育に対する批判……………三六

### 第三章 国民学校制の時代

- 1、国民学校への移行……………三九
- 2、国民学校令下における教育……………四一
- 3、空襲警報の下で……………四六

### 第四章 奈良プランの樹立と実践

- 4、戦後における教育の再建……………四八
- 5、「学習研究」誌の復刊……………五四
- 6、わが校における民主化への歩み……………五八
- 1、武田主事から重松主事へ……………六一
- 2、「奈良での仕事」(重松麗泰)……………六三
- 3、「奈良プラン」の樹立……………六七
- 4、「奈良プラン」による実践……………七一
- 5、育友会の設立とその活動……………八〇
- 6、学校の雰囲気と子どもたちの変化……………八四
- 7、「奈良プラン」の発展……………八五

### 第五章 奈良女子大学文学部附属小学校となつて

- 1、文学部附属学校としてのあり方の模索……………八九
- 2、教育構造の改善……………九〇
- 3、育友会活動の組織改善……………九三
- 4、デューイ夫人の来校……………九五
- 5、「子どもの解明と学習」……………九七
- 6、「学習研究」誌の自費出版……………九九
- 7、授業観察と記録分析による研究の進展……………一〇三
- 8、「なかよし」による道徳指導……………一〇六

### 第六章 学園前に移転してからの附属小学校

- 1、新校舎建築と移転……………一〇九
- 2、研究・教育実践の経緯……………一一〇

「創造的学習の要件」の研究……………	一一一
「学習法の体得」の研究……………	一一四
「学習法指導体系（全五巻）」の研究……………	一一〇
「学習法の新しい展開」の研究……………	一一〇
「自己学習力を拓く学習法の実践」の研究……………	一一三
「子ども自立をたすける学習法（全六巻）」の研究……………	一一五
「奈良の学習法…『総合的な学習』の提案」の研究……………	一三六
「学習力」を育てる秘訣―学びの基礎・基本―の研究……………	一四〇
「確かな学習力を育てるすじ道」の研究……………	一四二
3、奈良女子大学附属小学校になつて……………	一四四

## 第Ⅱ部 附属小学校開拓期の訓導とその実践

1、木下竹次主事……………	一五三
2、幾尾純（音楽）……………	一五四
3、清水甚吾（算数）……………	一五六
4、神戸伊三郎（理科）……………	一五九
5、河野伊三郎（国語）……………	一六〇
6、山路兵一（国語）……………	一六三
7、秋田喜三郎（国語）……………	一六五
8、池田小菊（合科学習）……………	一六七
9、池内房吉（合科学習）……………	一七〇
10、鶴居滋一（合科学習）……………	一七二
11、岩瀬六郎（合科学習）……………	一七四
12、横井曹一（手工）……………	一七六

13、川口英明（体育）……………	一七八
14、北井柳太郎（体育）……………	一八〇

## 第Ⅲ部 出版書籍・雑誌

### 第一章 学習研究・伸びて行く・年史・文集

1、「学習研究」……………	一八五
2、「伸びて行く」……………	一八九
3、「わが校五十年の教育」……………	一九三
4、「七十年史要」……………	一九四
5、「わが校八十年の歩み」……………	一九四
6、児童文集「奈良の子ども」……………	一九六
7、育友会文集「愛眼」……………	一九六

### 第二章 学習研究会刊行の著書（戦後の出版物）

1、「わが校の教育」……………	一九七
2、「たしかな教育の方法」……………	一九七
3、「生活カリキュラム構成の方法」……………	一九八
4、「正しいしつけ」……………	一九九
5、「子どもへの解明と学習」……………	二〇〇
6、「教科外活動99の相談」……………	二〇〇
7、「研究授業99の相談」……………	二〇一
8、「なかよし」活動と道徳指導……………	二〇二
9、「創造的学習の要件」……………	二〇三
10、「学習法の体得」……………	二〇三



11、「学習法指導体系(全五巻)」……………	二〇四
12、「学習法の新しい展開」……………	二〇五
13、「自己学習力を拓く 学習法の実践」……………	二〇五
14、「子どもの自立をたすける学習法(全六巻)」……………	二〇六
15、「奈良の学習法「総合的な学習」の提案」……………	二〇七
16、「学習力を育てる秘訣―学びの基礎・基本―」……………	二〇八
17、「新訂・「奈良の学習法」確かな学習力を育てるすじ道」……………	二〇八

## 第IV部 現在に生きる学習法

### 第一章 平成の学習法

1、私たちの研究動向……………	二二三
2、木下竹次の学習法の理念と現在の学習法とのつながり……………	二二四
3、重松鷹泰と「しごと」「けいこ」「なかよし」……………	二二五
4、「平成の学習法」の構造と広がり……………	二二五
5、学習法を取り巻く環境の変化……………	二二六
6、子どももの自律した学習の姿とは……………	二二七
7、子どもが学ぶ、教師が学ぶ学習法……………	二二七
8、将来に繋ぎたい学習法の真髄……………	二二八

### 第二章 学びの基盤の確立

1、自律的な生活を創る「朝の会」の意義……………	二二九
2、生活と学びをつなぐ「朝の会」の具体……………	二三〇
3、日直や学習係を育てる意義……………	二三一
4、「日記」の必要性……………	二三二

5、「自由研究」で育てたい力……………	二三二
6、「朝の会」と「日記」と「自由研究」の関連……………	二三三

### 第三章 「しごと」学習の目的と展開

1、「しごと」学習と「自由研究」及び、「しごと」学習と「けいこ」学習の関連……………	二三五
2、今日の「しごと」学習……………	二三六
3、「しごと」学習の教育的意義を問直す……………	二三三

### 第四章 「けいこ」学習の目的と展開

1、「けいこ」学習でどんな力をつけるのか……………	二三五
2、「けいこ」学習と教科書の関係……………	二三五
3、「けいこ」学習を取り巻く現在の環境……………	二三七
4、独自学習と相互学習のあり方……………	二三七
5、子ども主体の「けいこ」学習と教師の指導……………	二三八
6、「けいこ」学習を進めるための身の回りの環境……………	二三八
7、ノート指導と学習力……………	三三九
8、「けいこ」学習の課題と今後の展望……………	二四〇
9、各分野の指導の実際……………	二四〇
(ア)「けいこ(国語)」(イ)「けいこ(算数)」	
(ウ)「けいこ(理科)」(エ)「けいこ(体育)」	
(オ)「けいこ(造形)」(カ)「けいこ(音楽)」	
(キ)「けいこ(家庭)」(ク)「食育」	
(ケ)「国際」「情報」	

## 第五章 「なかよし」の目的と展開

- 1、「学級なかよし」の育て方……………二四九
- 2、「学級なかよし」、「学年なかよし」の具体的な活動……………二五〇
- 3、「なかよし委員会」、「くらし委員会」の活動……………二五一
- 4、行事で育つ子ども……………二五二
- 5、「グループなかよし」で育つ力……………二五三
- 6、「なかよし集会」の取り組み……………二五五
- 7、「なかよし清掃」のよさと問題点と改善法……………二五六
- 8、一年生と六年生のなかよしで育つ力……………二五六

## 編集後記

- 2、歴代文学部長……………四二二
- 3、歴代附属小学校主事、校長……………四二三
- 4、現職教職員……………四二三
- 5、在職教官、教諭一覧……………四二五
- 6、卒業者教一覧……………四三五

四三七

## 第V部 附属小学校の思い出

- 第一章 歴代校長の回想記……………二六一
- 第二章 旧教官、旧教諭の回想記……………二六六
- 第三章 歴代育友会会長の回想記……………二八五
- 第四章 卒業生の回想記……………二九四

## 資料

- 第一章 保存史料目録……………三〇九
- 第二章 育友会、後援会の規約及び組織の変遷……………三四五
- 第三章 略史……………三五四
- 第四章 要覧……………

1、歴代校長、学長……………四二二

四二二